

日本ロボット学会会員の皆様

日本ロボット学会理事会

今回の東日本大震災で犠牲になられた方々に対し、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様方に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

日本ロボット学会では、東日本大震災の発生以来、ロボットの利用に関して情報収集し、東日本大震災関連委員会を日本ロボット学会内に立ち上げて、継続的な作業を行っております。日本ロボット学会は、今回の大震災からの復興にむけて、当学会および学会員の持つ英知を結集し、最先端のロボット技術を含めたロボット関連技術を総動員して各機関からの要請に全面的な協力を行い、日本の復興に貢献する決意です。今後は、実際の現場の状況に応じて必要な仕様を明確にし、技術的解決策を展開いたします。

以下に、現在までの状況のご説明を会員の皆様にお知らせ致します。

[1] 共同声明発表

日本のロボット関連学術団体と共同で、「日本のロボット技術の適用に関する声明」を発表しました。

http://www.rsj.or.jp/shinsai/RoboticsTF_1.pdf

[2] 福島原子力災害に関して今後のロボットの利用について

残念ながら今回の福島原子力災害に関して、すべての作業をロボット等の機械システムによって行うことはできません。この事態の科学・技術面からの検証のみならずロボットの運用等を含めた社会システムのあり方についても検証し、今後の日本の復興に努力します。

(2-1) 緊急的事項

作業員の被曝量を低減するために、作業員の作業を部分的にロボットに置き換えることは可能と思われます。最も有力な候補は、レスキューロボットや現在までに開発されてきた自動建設機械等の利用の制約条件を解消する方法です。瓦礫などの障害物が多く存在する高放射線環境で、情報収集や多様な作業を行う万能ロボットは存在しないものの、その適用環境やミッションを限定した上で投入可能なロボットシステムは、現時点でも日本国内外に多くの機種が存在します。これらを積極的に利用することを日本ロボット学会として関係機関に強く主張します。

(2-2) 中長期的事項

原子炉冷却停止から廃炉および周辺地域の除染が完了するまでには、相当な時間が必要と予想されます。その間に、多様な作業が実行できるロボットを、産官学の連携により緊急に実現し、作業員の被曝量を低下させることが極めて重要と思います。そのための働きかけを関係機関に行います。

[3] 災害に関するロボットの利用についての情報

本災害におけるロボットの利用について、学会としても情報収集に努めておりますが、すでに、下記の情報等が公開されています。

福島原子力災害関係

<http://www.robonable.jp/news/2011/03/30irs.html>

http://www.getrobo.com/getrobo_blog/

地震・津波災害関係

<http://www.robonable.jp/news/2011/03/28matsuno.html>

<http://www.robonable.jp/news/2011/03/27nutech-r.html>

会員の皆様方からもロボット利用等に関する情報がありましたら下記のメールに御連絡頂ければ幸いです。

soumu@rsj.or.jp

今後も適宜情報発信および学会としての役割を果す所存です。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。